

# 令和5年度公立大学法人北九州市立大学評価委員会（第1回）議事要旨

- 1 開催日時 令和5年6月27日（火）9：30～11：25
- 2 開催場所 北九州市立大学 北方キャンパス E-701会議室（オンライン併用）
- 3 出席委員（五十音順：敬称略）  
井上 洋美、権頭 喜美恵、勢一 智子、安浦 寛人、吉谷 愛

## 4 議事内容

### （1）令和4年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間における業務の実績に関する評価について

- ア 委員長に安浦委員を選出し、委員長が、職務代理者として吉谷委員を指名
  - イ 事務局から、評価の方法について説明
  - ウ 北九州市立大学から、令和4年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間における業務の実績について説明
- （ア）主な質疑・意見

#### 【地域・環境に関する教育の充実】

- （委員）地域科目の充実等、地域と環境をキーワードに取り組んできたとのことだが、当該分野における北九州市との連携状況を教えていただきたい。
- （大学）地域科目は、学生の地域への愛着を高め、地元就職を促進することを目的に設置されたもの。例えば、「北九州市の都市政策」という科目においては、全15回のうち13回を外部講師にお願いしており、このすべてに、様々な部局の市職員が登壇している。
- （委員）地域人材の育成は重要であり、今後も新たなニーズが出てくる。今後も、立案設計時から市と大学がタッグを組み、取り組んでいただきたい。

#### 【オープンサイエンスについて】

- （委員）G7会合等でもオープンサイエンスが話題になっている。根拠データを含めて研究成果を公開するには、人文社会系では様々な問題もあると思うが、大学としてどういう見解をお持ちか。
- （大学）ご指摘のとおり文系は非常に難しいところがあるが、原典を明確にするのは研究活動の基本である。このため、盗作や剽窃<sup>ひょうせつ</sup>を疑われるリスクを回避するという観点からも、教員に対し、研修等において原典を明示するよう啓発している。
- （委員）優秀な教員の研究が評価されないのは、大学にとって大きな痛手である。オープンサイエンスに関する国全体のサービスも始まっているので、活用を検討されたい。

### 【チャットGPTの活用について】

- (委員) チャットGPTについて、企業では積極的に活用している一方で、社員の育成という側面での活用については、様々な議論がある。大学では、今後の展開をどのように考えているか。
- (大学) 生成AIの活用については、その利用方法と学生の育成面で二つの問題がある。利用方法については、先日、ガイドラインを発出し、課題やレポートでは使用しない等の方針を示した。
- 育成面で言うと、授業の中で生成AIに触れているものもあるが、教育プログラムに組み込んだりはしていない。
- (委員) 日本の教育、特に高等教育において、これにどう対応していくかは非常に大きな問題であるため、引き続き検討をお願いしたい。

### 【ジェンダーバランスについて】

- (委員) ライフイベント等で忙しい女性に役職をお願いすると、数少ない女性に大きな負担がかかるため、次世代の女性がそこを目指さなくなるという悪循環が働くのを目の当たりにしてきた。ジェンダーバランスに関する大学の方針はあるか。
- (大学) 教員の多様性の向上については中期目標にも定められており、今後、取り組んでいく予定。ただ、女性採用枠等を作ると様々なバイアスがかかるため、まずは基本に立ち返って優秀な人材を採用したいと考えている。
- (委員) 企業等では、優秀な女性社員は多いがリーダー教育をしていなかったため、外部から適材の女性を連れてくるという話があるが、それがかえってトラブルを招くとも聞く。
- 北九州市立大学は女子学生が多く、ジェンダーバランスは重要なテーマと考える。今後の具体的な進め方は。
- (大学) 管理職の女性を増やしていくことは、非常に重要な課題だと認識している。教員については、女性も学部長や学科長の職を経験することになる。その際には、必要に応じて他の教員がカバーする等の配慮を行っている。
- 職員については、今年度に入社育成に係る基本方針を策定予定。人材育成を通じて女性の登用を進めていきたいと考えている。

### 【その他意見】

- (委員) 私立大学の閉校の話がいくつも聞こえてくる中、公立大学の存在意義は高まっている。今後とも頑張っていただきたい。
- (委員) 時代によって子どもの性質は異なる。特に、コロナ禍で育ってきた子どもがどういった子らなのか、見極める必要がある。
- (委員) メンタルバランスを崩して通勤・通学ができない人が増えている。労働力人口が減少する中、こういったミッシング・ワーカーが増えていくのは非常に大きな問題である。大学においても、対応等を考えていただきたい。

エ 事務局から、評価調書の記入方法について説明